

所在地	二戸市石切所字晴山・台中平
調査原因	新幹線二戸駅周辺地区土地地区画整理事業
調査期間	平成25年4月30日～8月20日
調査面積	1,650 m ² （第32次調査181 m ² 、第33次調査1,469 m ² ）
主な時代	縄文、奈良、中世、近世
主な遺物	縄文土器・土師器・陶磁器・鉄製品ほか

①遺跡の説明

晴山遺跡は、馬仙峡公園の北岸に広がる遺跡で、上里遺跡群の南西に位置しています。南側には馬淵川が流れ、すぐそばに大崩崖や国名勝に指定されている男神岩・女神岩があり、風光明媚な景色を呈しています。

周辺の遺跡としては、北側に鎌倉時代の方形居館跡が確認されている諏訪前遺跡や、弥生土器が出土している火行塚遺跡や大淵遺跡があります。

これまで中世の集落跡とされていましたが、近年の調査で、縄文時代や奈良時代の遺構も確認されています。

②調査の内容

晴山遺跡は、遺構密度は高くないものの、どの地点からも遺構・遺物が確認されることから全面調査を行いました。

重機で表土（30～60 cm）を剥ぎ取り、遺構の確認できる面まで下げます。

そこで出てきた遺構を2等分や4等分に掘り、断面で埋め土の堆積状況を確認します。

遺物は、地区・遺構・層位別に分けて管理しています。

③調査の結果

第32次調査

竪穴住居跡1棟（奈良時代）、竪穴遺構1棟、小穴6個、遺物包含層（縄文時代）

第33次調査

竪穴住居跡1棟（縄文時代）、埋設土器遺構（縄文時代）、竪穴遺構4棟、土坑11基、小穴21個、近世墓42基

特筆すべき事項として、埋設土器遺構は、竪穴住居跡のすぐ東側に隣接して検出されました。土器は立位で埋設されており、土器を囲むように磨石が円形に並べられていました。（右写真）

